

東北電労「歴史の森」育成事業

令和3年5月29日（土）、当署と国民参加の森林づくり協定を締結している東北電労「歴史の森」育成協議会が主催する森林育成活動に、森林官など署職員3名が安全指導者として参加しました。

「歴史の森」は、中尊寺等の世界文化遺産で知られる平泉町から近い一関市巖手町の金山沢国有林において、歴史的な木造建造物の維持に必要となる大径・長尺材の確保が可能な森林づくりを目指して設定されました。新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期となりましたが、平成16年にケヤキ1,500本を植栽してから16年目の今年、森林育成事業として「つる切」と「除伐」を行うため、東北エリアから約30名の参加者が来訪されました。

開会式後、まず、一関森林組合の職員及び当署職員が、安全な作業方法や注意すべき植物（ウルシ、サンショウ等）について説明しました。その後、事前に一部刈払いを行っていた箇所の子条整理を行ってから、ノコギリを使って植栽木の成長を阻害するツルや樹木、ササ等を除去する作業を行いました。早くも暑さを感じる陽気でしたが、小まめに休憩を取りながら、皆さん元気に作業に取り組んでいました。

また、日々のお仕事で樹木の伐倒作業に慣れた方もいらっしゃり、「ここを抑えると切りやすいですよ」、「そっちの方向に倒しますよ！」など、他の参加者に声をかけたり、木を倒す方向に人がいないか指差呼称しながら確認するなど、安全意識の高い様子が印象的でした。

3月末に下見をしたときには、ササやツルが繁茂していた「歴史の森」でしたが、今回約2時間の作業により、見事にスッキリした森林となりました。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、今回のイベントでは、平泉の歴史的建造物への木材利用等に関する勉強会（現地見学）は見送られましたが、また別の機会に「歴史の森」を目指す大径・長尺材が利用された建造物を見て、「木の文化」を次代につなぐ森づくりについて想いを深めて頂けたら嬉しく思います。





暑い中での作業、お疲れ様でした！！